

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590100343		
法人名	医療法人 久幸会		
事業所名	あじさいの家		
所在地	秋田市山王沼田町4-11		
自己評価作成日	平成25年10月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成25年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

秋田市の中心部に位置するグループホームで、駅や公共機関が近隣にある都会的な環境の中で生活しています。入居者様との関わり「笑顔・安心」を最も大切にしています。個々の生活ペースや生活歴を尊重しておりゆったりとした雰囲気グループホームです。季節に合わせた行事を取り入れ、防災訓練を始めとし地域と触れ合いながら、街の一員として過ごしています。また、同法人の医療機関と連携を取りながら、安心して生活が送れる様に支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

スタッフ一人ひとりが理念を意識しながら、入居者の笑顔を引き出す努力をしている。管理者はスタッフが意見を言いやすい雰囲気作りをしており、よりよいサービス提供のための意見や提案が活発に出されている。地域とのつながりも大切にしており、事業所の活動内容を便りなどで積極的にわかりやすく発信することで、地域住民の理解を得たり、より緊密な関係作りにも努めている。特に、非常時の入居者の避難については町内会長の強い働きかけもあり、町内との協力体制が構築されている。法人の母体が医療法人であることで医療機関との連携も取れており、入居者や家族も安心して利用できている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1F・2Fスタッフルームの目に入りやすい場所にGH独自の理念と法人全体の理念を掲示している。理念の共有と実践状況について、理念を理解できているかどうか振り返りを行っている。	事業所内に理念を掲示し、スタッフが理念について常に意識できるようにしている。また、半年に1回行われる理念の振り返りでは、日々の支援の中で理念を実践できているか、今の理念のままでよいか等、スタッフ全員が改めて理念について考える機会を設けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の公園清掃に参加するなど、交流を図っている。町内を散歩したり公園に出掛けるなどの積極的に町内に出るなどしている。また、あじさい便りを町内に回覧している。	地域住民向けの便りを作成し、事業所の活動内容や様子をわかりやすく説明したり、事業所で実施される心肺蘇生講習会の案内をする等、地域住民が事業所について理解できるように、積極的に情報や資源を提供している。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	グループホーム連絡協議会の作品展の案内やあじさい便りの回覧などで日頃の様子を公開している。また、救急蘇生法の講習会を開催して参加して頂いている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に町内会長や包括支援センタースタッフ、ご家族様に参加して頂き意見交換を行いアドバイスを元にサービスの改善や向上に努めている。	運営推進会議では、事業所の活動状況を報告する他意見交換することで、新たな情報や協力を得る場となっている。町内会長からは非常時に関するアドバイスや協力をもらい、入居者の安心につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者との関わりは少ないが、町内会長の協力を得て災害時のハザードマップや入居者様の避難場所の確保等の協力を得られている。また、市町村が開催する研修などに積極的に参加している。	サービス提供に関しては主に包括支援センターに相談している。また、市町村が開催する集団指導等に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関には、センサーを配置するなどし施錠はせず開放している。スタッフには、日頃のケアに対しても拘束を行わないケアを意識付け取り組んでいる。	身体拘束を行わないという意識を全スタッフが持ち、入居者の行動にアンテナを張って、気掛かりな入居者の行動についてはお互いに情報交換しながら、身体拘束を行わない支援の中で対応できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の研修やグループホーム連絡会などの研修に積極的に参加し、研修内容をミーティングなどで必ず報告しておりスタッフ間でも確認しながら見過ごされない様にケアに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修に参加し学んでいる。また、不明な点は積極的に法人内の相談員に聞き連携しながら取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様やご家族様の不安等を十分に説明し早めに解消する事で安心して暮らせる様に、相談員と協力しながらその都度対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に意見箱を設置し、意見等がスムーズに出せる様に配慮している。また、面会時などにスタッフからご家族様に積極的に声を掛け意見を聞くなどしている。	入居者からは普段の会話の中から自然と希望が出てきており、職員は入居者の希望が実現されるよう努めている。また、意見箱を設置している他、家族に対しては面会時や電話連絡の際に意見や要望を聴くようにしている。	家族が今よりさらに希望や要望を出しやすくなるよう家族アンケート等を実施し、より良いサービスにつなげられることを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを開催しスタッフの意見を聞く機会を設けている。また、管理者は普段からスタッフが相談しやすい雰囲気心がけ意見を聞く様にしている。	管理者はスタッフが意見を言いやすい雰囲気作りを努めており、毎月のミーティングではスタッフから率直な意見や提案が出され、運営に反映されている。また、意見が採用されない場合はその理由が丁寧に説明されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に1回、自己評価用紙に記入した年間目標シートを作成し所属長との面談を実施している。その結果を管理者に伝え、今後の職場環境に生かしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内や外部の研修に積極的に参加し、日頃の実践を振り返る機会を作っている。スタッフ1人ひとりの力量を見ながら、参加する研修内容を考えている。また、各自責任を持って業務を行う様にトレーニングしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ法人内のグループホームへ訪問し交流を図ったり、秋田市グループホーム連絡会に参加し勉強会や相互訪問や交流会を行い、サービスの質について見直す取り組みを行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい生活に対して不安にならない様に相談員と協力し本人のペースに合わせて説明する様に心がけている。また、担当のスタッフを置き安心して要望を話したり、訴えやすい環境を提供している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人の生活歴を理解しながら、ご家族様との関係も把握する様に努めている。特に面会時はご家族様の思いを受けとめる様に配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の体調に合わせた食事の盛り付けや食器洗い、洗濯たたみ、ホーム内の掃除等をスタッフと一緒にを行い、信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族交流会を敬老会と合同で年1回開催し、ご本人、ご家族様、スタッフが自然に交流しやすい環境を作っている。また、外出レクなどへご家族様に参加して頂く事で、ご本人と過ごす時間を多く取れる様に工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人との面会や外食は、希望があればすぐ対応できる様支援している。また、知人からの便りや連絡が途切れない様にご本人の希望を伺い、近況を連絡する様に心掛けている。	家族や知人が面会に来やすい雰囲気を作り、一緒に外出等できるよう支援している。また、入居者の希望でお墓参りに行く等、馴染みの人や場所とのつながりが継続できるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様が孤立しない様に周囲との関係に配慮しながらさりげなく声掛けをしたり、入居者様同士で談笑できる様な環境を作る様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中は、面会に伺い様子観察したり、ご家族様の相談など相談員と協力しながら対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月モニタリングを実施し、ご本人の訴えを傾聴し担当スタッフと協力しながらケアプランに生かしている。またミーティング時、全スタッフで話し合いご本人の思いを把握する様に努めている。	普段の会話の中でさりげなく希望や訴えを聴いたり、意志の伝達が難しい入居者の場合は表情や行動から読みとる等し、その内容をモニタリングに取り入れている。また、入居前の趣味等も楽しめるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様、ご本人から生活歴を聞きファイルにまとめている。場合により担当ケアマネからの生活歴などの情報を求めている。ご本人の生活歴を可能な限り継続し入居者様個々のスタイルで生活が送れる様に情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	独自に制作した申し送りファイルを活用し、24時間の心身の状態の変化を分かりやすく記入して実践に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を活用しケアチェック表を作成しアセスメントを行っている。毎月必ずカンファレンスやモニタリングを行い、本人の要望を聞いている。また、ご家族様にも現状を報告し希望を確認して介護計画を立案している。	アセスメントはセンター方式を使うことで本人の思いをスタッフ全員が把握しやすいようにしている。毎日チェックするチェック表には一人ひとりの介護計画の長期目標が記載されているため、各々の目標を意識しながら支援にあたることができる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のミーティングでカンファレンスを行い、対応を話し合い、記録し、情報を共有している。朝・夕の申し送りなど個別の記録を活用し変化を見逃さない様にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティアに訪問して頂き、押し花の会などを開催している。また、大型店の買い物に出掛けるなど行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に協力医療機関の説明を行い、希望に応じて病院の付き添いを行いながら受診を支援している。	本人や家族の同意を得て、同法人の医療機関を受診している。スタッフが通院に付き添った場合は、家族に電話にて報告し、入居者の状態がわかるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りファイルを活用して、看護師へ分かりやすく速やかに報告している。特変があった時は、看護師へ早めに報告し受診等の指示をもらう様に責任を持ち対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師や相談員と連携を図り対応している。入院時には、入院時の経過確認や情報を相談員を通して聞くなどしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に主治医や相談員等を交えて終末期ケアについて話し合いが持たれている。	法人として「重度化した場合における対応に係る指針」を策定しており、これに則った対応をしている。入居時には家族と終末期ケアについて話し合いを持ち、医療機関との連携等についても説明をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを日勤帯・夜勤帯でそれぞれ作成し、落ち着いて出来る様にミーティング等で実践訓練を行っている。また、年1回消防署の心肺蘇生講習を開催するなどし、緊急時対応を身に付ける様に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震想定と火災想定の間夜間想定避難訓練をほぼ毎月実践している。通報の対応や災害時の避難場所の確保など地域の協力を得ており協力体制が出来ている。	避難訓練を毎月実施し、災害時にはどのスタッフでも対応できるよう訓練している。入居者の避難誘導や避難場所、備蓄等については町内から協力を得ており、入居者が安全に避難できる体制作りがなされている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのこれまでの生き方を尊重した声掛けや雰囲気作りに努め、安心して過ごせる環境を提供している。	入居者への声掛けは、誇りやプライバシーを損ねないように努めている。入居者が排泄等で失敗した場合も、プライバシーを傷つけないようにスタッフ間で統一した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個性に合わせた対応を行い、時間がかかっても焦る事なくご本人が納得して決める事ができる様に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせた対応ができる様にその日の体調や表情を十分観察し居心地の良い環境を提供するなどし、声掛けも入居者様一人ひとりに合わせた声掛けを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	定期的に法人内の床屋を利用したり、ご本人の希望によりスタッフが髪染めを行っている。更衣の際はご本人の好みに合わせた服と一緒に選び季節に合わせた洋服選びを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや準備などを入居者様の無理のない無い範囲内で一緒に行っている。スタッフも同じメニュー内容を検食する事で、入居者様の好みを把握する事ができる。また、配食サービス業者に定期的に嗜好調査の報告をおこなっている。	献立は法人内の調理部門の栄養士が作っているが、毎月行われるキッチンミーティングで入居者の希望を伝えたり、スタッフが検食した感想を伝える等して、今後の献立に反映させている。入居者もできる範囲で食事の準備等を手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を毎食ごとに記録を行い健康状態の把握に努めている。個々の状態に合わせた量や形態を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々の状態に合わせて声掛けや見守りを行い支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに添って、声掛けや誘導に配慮しながらトイレ誘導を行っている。夜間帯はトイレ覚醒の回数を記録しその日の入眠時間や排泄量を確認しながら、出来るだけ自力でトイレへ行ける様に見守りを行っている。	サービス提供表で排泄パターンや水分摂取量を把握し、それらを考慮しながらトイレ誘導している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便回数・量・性状を記録して早めに変化に気付く様に観察を行っている。朝の牛乳やラジオ体操・散歩など取り入れて予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴をすすめて清潔保持に努めている。個々の体調や希望に合わせた時間帯に提供している。	個々に希望の入浴時間を聞き取り、希望する時間に入浴できるよう支援している。体調不良等で入浴できない場合は清拭で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	落ち着いてくつろげる様に自室やサロン、リビングのソファで休息できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の内容・目的・容量・用法を個々の受診ファイルに記録している。受診時内服内容に変更があった場合は状態の変化に気をつけて観察を行う様に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の日課としてラジオ体操、毎月の行事食・外出レク等を提供しメリハリのある生活を心掛けながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	毎月の外出レクは入居者様の希望に合わせて企画し、ご家族様やボランティア、法人内の職員と協力しながら実施している。また、1人のペースに合わせて、安全に外出できるように支援している。	暖かい時期は近所に散歩に出掛ける他、入居者の希望や季節に合わせた外出レクレーション、買い物外出を企画している。また、法人内の別の事業所とは魅力的な外出先の情報交換をし、入居者が楽しめる外出先を開拓している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にスタッフが管理しているが、外出レクやスーパーでの買い物は、個人に合わせてお金を自由に使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に応じて自由に電話を使用している。また、押し花レクで作成した葉書を使い、ご本人の了解を得て郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季に合わせた壁画や置物を飾り、季節感を出している。消臭剤などを効果的に使用し不快な臭いの無い様にし、違和感なく快適に過ごせる様配慮している。また、サロンや2階に季節の花を飾るなど鑑賞しやすい様に工夫している。	事業所内は季節感のある装飾がほどこされている他、入居者が創作活動の時間に作った押し花等も掲示されている。入居者は日中、居間で過ごすことが多く、居心地のよい空間となっていることが伺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	サロンにソファやテレビ、植物を置き、気軽に入居者様同士気兼ねなく過ごせる様に配慮している。リビングでは思い思いに過ごせる様に一人掛けのソファなどを置き雰囲気作りに工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が昔、使用していた物など馴染みの物をご家族様・ご本人と相談しながら、居心地良く過ごせる様に配慮している。	居室内は清潔感があり、入居者の馴染みの物が置かれている。エアコン設置については、法人に相談し働きかけている。	入居者が高齢であることを考慮し、より快適に過ごせる空間作りのため、今後もエアコン設置について法人に働きかけていくことが期待される。また、隣のアパートと隣接している居室については日中もプライバシーが確保されるような工夫を期待する。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	2階建ての造りだが、廊下・階段・トイレ・浴室に手すりが設置されており、安全に身体機能がいかせる様に工夫している。		